

宿場まつり

コロナで二年連続中止!!

猛暑の夏がいき季節は秋を迎えました。昨年来の新型コロナウイルスの流行が止まらず波状的に感染が続き、強力な変異株の出現もあって高齢者のワクチン接種こそ終わっているものの感染者の拡大に歯止めがかからない状況下にあります。

こうしたコロナ禍の中でこの秋、八団体で木屋瀬最大のイベント、筑前木屋瀬宿場まつりについて八月段階に構成される木屋瀬宿記念館運営協議会で感染予防と拡大防止の観点から本年度も中止することを決定いたしました。

二年続きの中止となりましたが、今は変異型ウイルスの拡散から身を守り感染再拡大を防止することが肝要です。

住民の皆さんの中止に対するご理解とコロナ感染予防対策の徹底を改めてお願い申し上げます。

長崎街道木屋瀬宿記念館 運営協議会

広報部会長 徳永興紀



北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館 運営協議会 広報部会
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号(〒807-1261)
TEL 093-619-1149
FAX 093-617-4949

木屋瀬発信！科学のタネを撒く

木屋瀬小学校 校長 瀧上 正彦

「子どもが考え発する一言一言が心に響いた」
「子どもに学ぶ意味を教えられた。感動した」
「KOYANOSE 科学フェスタ」は、未来に輝く子どもたちのために、科学の楽しさを伝え、広めることを目的として木屋瀬宿場町と木屋瀬小学校がコラボして始めた行事です。

福岡県北部の中心地である木屋瀬の地の利を活かして、県北を対象に呼び掛けたイベントですが、今年は7月31日(土)18時から、オンラインで全国・海外を対象に科学のタネ撒きをしました。

今年のフェスタは、コロナ禍でもあり規模を縮小して「子どもプレゼンテーション」と「子どもシンポジウム」の2部構成で行いました。

「子どもプレゼンテーション」は、北九州市内から長崎街道こやのせ座に集まった小学校2年生から中学校1年生までの6人の児童生徒が舞台上に立ち、自学・自由研究を100人の聴衆を前に、堂々と発表しました。

6人の子どもは、市内理科展、発明工夫展などで上位入賞を果たした子どもたち(木屋瀬小児童3名)です。研究の動機や見つけたこと、難しかったこと、研究してよかったことなどについて語りました。中には、失敗をして何度も、何度もやり直して「あきらめないことは大切」と熱心に語る子もいました。



「子どもシンポジウム」では、2年生児童を除く子ども5人が舞台上にそろって登壇して、聴衆からオンラインで寄せられた質問に自分の言葉で答えました。パネラーには、京都大学理学部の学生、東京から駆け付けた元SONYエンジニアも加わり、子どもたちのシンポジウムに花を添えました。

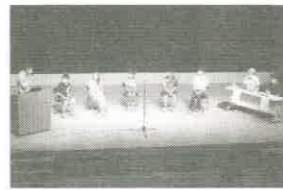
さて、「KOYANOSE 科学フェスタ」は、実は第2回目となるイベントです。第1回目は、令和元年度に行いました。

第1回目は地域の梅本静一先生からの紹介で松田勝弘氏の「子どものための昆虫展」を同時に開催しました。100ケースの黒塗りの標本箱には、巨大な甲虫や南米らしい色鮮やかな蝶がぎっしりと並べられ、木屋瀬小全児童が観覧

すると共に、松田先生の昆虫講座を聞き、好奇心が膨らみました。最終日には、木屋瀬銀杏の会が赤とんぼなど昆虫に関する歌と松田氏の昆虫のお話をコラボした「虫コンサート」が行われました。さらに2日目の夜には光ディスクの開発者である元SONYエンジニアが実験も交えた光ディスクの仕組みや自分の小学校時代を語る「科学者レクチャー」を行いました。

その他、台風襲来で後日学校開催となりましたが、「科学屋台ものづくり教室」や世界一のモーターコアのシェアを誇る「地元金型工場のレクチャー」など、多彩なイベントが目白押しでした。

このイベントのモデルは、ノーベル賞受賞者を多く輩出するドイツの地方都市(3都市)で行われる「科学の夜長」というイベントです。



「科学の夜長」は地域の企業や大学、研究機関などが一斉に門戸を開き、各組織はプロジェクトや研究内容、技術、業務を紹介・体験できるようにするほか、講演などを行います。隔年で秋の週末、午後6時から翌午前1時まで開催され、参加者は12ユーロ(1500円程度)のチケットを購入すると、どこでも訪問が可能。一夜限りの「科学万博」をイメージしていただけるといいだろう。

※引用；東洋経済オンライン；高松平蔵より

ドイツと言えば数百年前、ドイツ人のケンペルとシーボルトが参府の折に木屋瀬の地を訪れ、集まった人々に西洋の自然科学や医学を紹介した歴史が残っています。木屋瀬の地は、もともと新しい科学文化を発信するに適した地域なのです。

木屋瀬は来るものを拒まず、持つものを与える土地柄です。誰もが整備された町並みと、飾り気のない率直な人柄に触れて心癒され、木屋瀬のファンになります。私もこの町が大好きです。

この取組は、「親子で学ぶ！科学的思考力を育む自学のススメ」(小学館)の中でも紹介しています。史料館、市民センターに寄贈していますので、手に取ってみてください。

(書店やネットでも購入できます)



筑前木屋瀬 第12回 今昔歳事記

紅屋泰助氏(故 柴田泰助氏)の「筑前木屋瀬今昔歳事記」の第12回目です。今回は、「ひろば北九州」平成22年10月号に掲載された10月の行事・風物について、前編としてご紹介させていただきます。

須賀神社秋季大祭 楽しい御馳走・柿の葉寿し

神無月の訪れと共に、木屋瀬のランドマークでありシンボルツリーでもある須賀神社・扇天満宮・興玉宮(庚申様)の銀杏大樹は黄色に染まり行きます。雨上がりの朝などに各社の境内が銀杏大樹の落ち葉で見事なまでの黄金色の絨毯に覆われるのが、此の時季でございます。

又、放射冷却現象により遠賀川より湧き立つ川霧に、夜半から早朝に掛けて旧長崎街道筋の家並みが沈み溶け込む光景が見られるのも此れからの季節。今も昔も変わらぬ宿場木屋瀬の秋の風情でございます。

さて、今十月の行事はと申しますと、須賀神社恒例の秋季大祭が、今年は三十日(前夜祭)と三十一日(正祭)に執り行われ、正祭の後には子供相撲が奉納されます。

此の行事は秋の豊穰に感謝し祝う祭事(秋祭り)で、宮日ともお宮日とも申しますが、当地木屋瀬は元来より神無月の二十八日と二十九日に執り行われ、他地域より遅い時期だった処から「木屋瀬宮日は晩宮日」と古より伝えられています。

因みに、木屋瀬宮日の御馳走の一つとして宿驛往時より伝わる柿の葉寿しを戴く時は、紅葉して一枚一枚異なる柿の葉色模様を楽しみながら味わうのを嗜みとする、往時の木屋瀬住民の心の豊かさを窺わせる文化的慣習が伝えられて居ります。

此の柿の葉寿しは、去る事十五年前、岩井屋不彫さんが残された資料を基に〔筑前木驛・茶目氣一輪〕の御寮人たちが創意復活し、爾来、秋祭りの直会の膳には欠かせない料理となっています。又、近年恒例の町づくりイベント〔筑前木屋瀬宿場まつり〕では、毎年約千個が茶目っ氣汁や甘酒と共に須賀神社境内にて振る舞われ、今では木屋瀬の名物料理として内外に知られて居ります。

つづく (記念館)

いろはかるたのご紹介

たかはり まく ごほんじん
た 高張 まん幕 御本陣

木屋瀬宿には筑前国主・黒田侯をはじめ九州の諸大名や長崎奉行・日田郡の宿泊する本陣(茶屋)が黒田藩によって設けられ、七つの門があったと伝えられています。正門には黒田侯の家紋(藤巴)入りの高張提灯が掲げられ、麻の幔幕が張られていました。尚、本陣には街道を隔てて間口三間半の町屋八軒が面して「本陣前八軒屋」と称され、葺き平屋建てが習いでございました。



シリーズ 文化の薫る町 木屋瀬 第三回

木屋瀬の町並みの成立

木屋瀬の町並みは、十五世紀半ば頃、遠賀川の河港として成立したものと推定されます。このことは町並みを構成する寺社の来歴によって伺う事が出来ます。木屋瀬で最も古い長徳寺が嘉禎元年(1235)年、扇天満宮が観応期(1350)年、又、須賀神社が(1429)年、西元寺(1582)年、永源寺(1523)年この地に創立されており、このことから遠賀川の物流基地として寺社を核とした門前町として町並みが成立したものと推定されます。その後、慶長十七年(1612)冷水峠が開通し長崎街道の宿駅として機能を整え現在の宿場時代の町並みが出来たと推定されます。記録によると、元禄五年(1692)民家208戸、天明七年(1787)民家300戸、明治十七年(1884)民家320戸等の資料が残っています。さて、平成五年の九州産業大学の町並み調査によると街道に面している家が180棟とあります。大火事、水害、近代化などで間口や町屋の形式が変わり、戸数が幾分少なくなっていますが基本的な町割りは変わっていないようです。伝統的建築物として残っているところが、八十八軒、建築年代として外観からの判断で江戸期12軒、明治期48軒、大正期9軒、昭和期7軒、不明12軒とあります。

木屋瀬の名家松尾家

過日、西構口近く長崎街道に面して江戸期に建築された姿を現代に残している、松尾良美様宅を訪ねてみました。松尾家は、天保二年(1831)人馬支配役に就任、その後、三代にわたり、人馬方、舟庄屋大庄屋格を務められた木屋瀬宿の名門です。明治維新後も木屋瀬村戸長(初代村長)を務められました。建物の外観は、妻入り入母屋形式で、壁は漆喰を塗り込んだ大壁造りです。屋根は、通称馬乗りと言う山型で、直接雨だけが街道に落ちないようにした作りです。二階の窓は銅板で、ぴったり閉ざされ大名行列などを二階から眺めることは禁じられていました。又、水害対策からか、吹き抜けの二階が作られ吊りハシゴも準備されています。室内には、明り取りも設けられ、下からひもを引けば、天井から明かりが取れる仕掛けにもなっています。建築年代は天保十五年(1845)前後と推定されています。嘉永五年(1852)麻生東谷が描いた「木屋瀬宿図絵馬」にも、屋根の形や間口の様子等現代と変わらぬ描かれており、又、江戸時代の役目上の文書や藩侯からの表彰の品等も大切に保存されています。



松尾家 外観



松尾家 通り土間

通り土間秋の風鈴響きけり 赤とんぼつるべ無くした庄屋井戸

本町 野口靖彦



松尾家当主

新春イベントのお知らせ

※詳細は後日お知らせします。 ※新型コロナウイルスの感染状況により中止する場合がございます。

第20回 木屋瀬いろは歌留多大会

木屋瀬の文化と伝統が織り込まれた、木屋瀬ならではの歌留多大会です。新年恒例の行事ですので、子どもも大人も奮ってご参加ください。

日時：1月8日(土) 10:00~

場所：北九州市立長崎街道 木屋瀬宿記念館 こやのせ座

こやのせ座NewYearコンサート2022

響ホール室内合奏団の団員の皆さんに出演をお願いして開催している恒例のコンサートです。毎回楽しみにおられる方が多く、今回はどのような楽曲が披露されるかご期待ください。

日時：1月23日(日) 14:00~

場所：北九州市立長崎街道 木屋瀬宿記念館 こやのせ座

笹田のお薬師

笹田のお薬師さまは金剛山の麓の空気清浄な高台の地に鎮座されている。往時は大寺であったと言われ、千五百年の歴史をもつ古刹である。

薬師さまは人々に病に勝つ力や死を追い払う力を与えられる仏として信仰者が多かった。笹田薬師さまの内陣は、奈良時代に倣い、如来の両脇侍に日光月光の二仏を配し、四天王や十二神将を配した浄土が構成されている。この極楽浄土の諸仏像は国宝の価あり、と言われているが傷みがひどく残念なことである。けれど信仰者の守護神である十二神将像は立派なお姿である。

十二神将は中国のそれぞれの時代の武将の姿で、時代時代の武器や衣服や表情などを現わしている。奈良薬師寺には十二神将像が揃っているが、他の寺では仏



わたしの昔話

の座や壁に絵画で表している位であり御尊像は稀である、と言われている。笹田のお薬師さまの御尊像は実に貴重である。敦煌壁画の薬師浄土には如来の両脇侍に薬王、薬上の施業の二仏を配して薬師の守が施業していたことを表わしている。日本に仏教が渡ってくる

と医術も伝わってきた。こうした時代も進化していくが、人々は加持祈祷より他にはなにも頼るものがなかった長い暮らしの習慣があったか、なお加持祈祷のほうに傾いていた。

薬師の守はこうした人々に対し、まず薬草の種類や

採集を教えられ、薬草の効果や用い方をよく説かれて与えられていたと思われる。自分の生命と健康は自分で守るよう説かれていたのであろう。この頃の薬師の寺は医者でもあった、と言われていた。

笹田のお薬師さまに子供の頃お詣りしたことが、今も心にある。お堂の正面参道は石段であったが石段の踏石面が摺り減っていた。何かお願いする人々やご利益を戴いた御礼詣りの人々に踏まれ踏まれて摺り減ったのだと思った。言われるままに御仏に對して手を合わせ頭を下げた。側には私のことを懸命にお願いされているあたたかい姿もあった。

山の大気と薬師の森の靈気の中に憩い、飴玉を口に遊ばせながら小鳥のささやきを聞いていた。 本町 柴田由美子

柴田豊廣遺稿・未発表より

こやのせ座落語会

日時：11月14日(日) 開演：14:00 開場：13:30

場所：北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館 こやのせ座 入場料：前売り 大人500円 中学生以下200円 当日 大人800円 中学生以下300円 定員：先着100名(全席自由) ※電話での予約制申込先

Advertisement for 'こやのせ座落語会' featuring a photo of a performer and event details.

申込先... 北九州市立長崎街道 木屋瀬宿記念館 TEL 093-619-1149

この落語 かなり イケます!!

第82回 長崎街道筑前六宿ひざくりげ 企画展

会期：10月30日(土)~12月19日(日)

会場：北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館 みちの郷土史料館 企画展示室

江戸時代、長崎街道にはおよそ25の宿場町があり、徒歩で長旅を行う人々に休息と癒しを与えていました。そんな宿場町の中でも、黒崎宿、木屋瀬宿、飯塚宿、内野宿、山家宿、原田宿は“筑前六宿”と呼ばれ、大変活気のある町でした。

Advertisement for the 'ひざくりげ' exhibition with a map of the six inns and event details.